

放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

アンケート実施期間: 2024年12月

結果公表日: 2025年3月27日

回答率

事業所職員: 3名回答、回答率 100%
保護者様: 19名回答、回答率 82.6%

職員の意見

○環境・体制整備

環境としては動線を整えながらゾーニング等で工夫して対応している。送迎調整や配置の工夫をして対応している。

○業務改善

限られた時間の中で全員が出来る限り参加出来るようミーティングの時間を調整している。

問題意識の共有、解決を行えるよう意見交換を密に行い、改善に向けて積極的に意見交換を行っている。

○適切な支援の提供

個別支援計画の内容について、教室全体で共通理解を持ち、支援を行っている。集団療育では、療育内容に偏りがないよう教室全体で療育内容を立案し、プログラムが固定化しないよう工夫をしている。

○関係機関や保護者との連携

送迎時の保護者対応や家庭連携を通じ、児童の問題や取り組みについて共通認識が取っている。必要に応じて、事業所内相談も行っている。

○保護者への説明責任等

コロナなどの感染症の影響を受け、定期的な保護者会の開催出来ていないが、送迎時や面談時など時間を確保し、適宜保護者と連携できる機会を設けている。

○非常時等の対応

月に1回、地震・火事・水害などの避難訓練を実施している。備蓄についても定期的確認をしている。災害時マニュアルを設置し、職員間では共有できているが、保護者の認知度が低いのが課題である。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

教室のスペースについて、「いつも綺麗に整頓されていると思います。」「子どものトータル数が分からないため、何とも言えない。」というご意見をいただいた。
体制整備については、「もう1~2名スタッフが多いと不安の大きい児童に対しては良いと感じる反面、その分教室も狭く感じてしまうと思うので難しいところだと思います。」というご意見をいただいた。

○適切な支援の提供

「子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画が作成されているか」の設問に対し89.4%「はい」の回答であった。

○保護者への説明等

「日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか」に対し、100%の方から「はい」というご回答をいただいた。「いつも配慮していただいていると感じております。」というご意見をいただいた。

○非常時等の対応

非常時等の対応について、「子どもが飽きないような、プログラムを組んで避難訓練を行っていただけるのがありがたい。」というご意見をいただいた。「どちらともいえない」とご回答した方からは、「(取り組みを)把握していない」というご意見をいただいた。

○満足度

「その時その時で困りごとが変化していく中で、どの職員の方もいつも親身に話を聞いて対応策を考えてくださいます。保護者では思いつかないことも多く、本当に頼りにしています。保護者の気持ちにも寄り添ってくださるので、難しい子育てをしている中で大事な相談先になっています。」「子どもとの距離も近く、且つ子供を一個人としてきちんと見てくれている姿勢が素晴らしいです。」というご意見をいただいた。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

・中長期的な改善計画

引き続きより細やかな保護者支援の継続、子どもが中心の教室作り

・1年間で取り組む具体策

おこさま単体でみるのではなく、トータルケアの視点をもって、学校、家庭との情報共有の強化、所内のボトムアップのための積極的な研修の実施(最低4回/年)

個々の障害特性受容のための研修、ここの児童に寄り添うために適宜お話タイムの実施。子どもたちが教室を自治するための「子ども会議」を毎月実施。

○改善できた点・まだ残る課題

家庭連携等細やかな連携による保護者支援の実施、社内研修の実施、子ども会議の実施について、すべて改善することができた。引き続き保護者や児童のニーズを正確に把握し、一人一人が通所を楽しみにできるような教室作りを行う。

アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

日々の家庭連携や療育プログラムの工夫により、保護者との信頼関係を構築することができた。

児童からのニーズに応え、療育の機会を増やすため土曜特別開室等イベントを開催している。

○改善点

「事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか」「緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか」という設問に対し、半数の方から「あまり教室を見たことがない」「説明をされているが日常生活の中で意識されることが少ない」とうご意見をいただいていたので、改善が必要だと考える。

中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

・通所児童に寄り添い、児童の意見を反映したイベント、療育プログラムの設置により魅力的な教室運営を行う。

・緊急時対応や防犯対応、感染症対応などの事業内容をより知ってもらうために、保護者会・療育参観等の機会を設ける。

○1年間で取り組む具体策

・現在実施中の特別開室等を基盤とし、イベント開催の企画段階から児童との話し合いの機会を設け、児童自身が、自分たちで考え実行する経験を積めるようにしていく。

・コロナ等の感染症対策により実施できていなかった、保護者会や療育参観を開催し、療育内容や教室の対応について知ってもらう機会を増やす。また、事前アンケート等により保護者の関心のあるトピックスの把握を行い情報提供する。